



新型コロナウイルス感染症

感染拡大防止のための活動報告No.30

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の活動は、日常生活を一変させてしまいましたが、マスク着用・手指消毒・咳エチケットなどが浸透して、無理のない範囲で行うことが求められています。婦人会では、地域ごとに活動を継続しています。そこで、新しい生活様式のために取り組む婦人会活動を紹介いたします。

<青森県地域婦人団体連合会（五所川原市連合婦人会）>

五所川原市では、緊急事態宣言解除後も、継続してマスク作りを週2日（火曜日と金曜日）行っています（写真1）。

市の協力要請を受けた婦人会は、市民から寄付された反物を使って、大人用、子ども用、幼児用などをさまざまなサイズのマスクを作成しました。その模様は中間報告ですが、市の広報誌にも掲載されました（写真2）。



写真1 三密を避け、換気のよい大広間で作成できあがったマスクには、ねぶたの図柄もあります

五所川原市連合婦人会 手作りマスク製作奉仕活動の経過を報告

五所川原市連合婦人会の外崎会長は、市の協力要請に応じて製作奉仕活動をしている手作りマスクについて、5月27日、製作の途中経過を市長へ報告しました。

市では、市民の方から寄附を受けた反物を有効活用するため、同婦人会にマスクの製作を依頼しており、前日までに大小850枚を完成させました。

婦人会の皆さんが協力し合って製作したマスクは、ねぶたなどの観光に関する絵柄があしらわれ、大人用、小学生用、幼児用など様々な大きさがあります。

市では、小学校などに配布するほか、今後の災害対応のため備蓄することとしています。

外崎会長は「感染症対策のため、衛生に気を付け、お互いの距離を取りながら製作した。必要な時に、大切に使って欲しい」と話しました。



製作の途中経過を報告した外崎会長(左から3人目)

写真2 五所川原市広報7月号15pより抜粋



現在は、災害対策用など、幅広い用途に向けて、必要な時にすぐ使用できるよう、マスク作りを継続しています。